

グローバル化と国際共同道徳学習案の意義

—台湾と日本のいのちの支え合い—

上 藺恒太郎、長田誠、一瀬利朗、賀南、蒲池文恵

キーワード：グローバル化、道徳学習案、台湾、心のメモリ、手づくり連想マップ

1. グローバル化
2. いのちの支え合い
3. ふり返り、個人そして協同
4. 国際共同道徳学習案(日本語、中国語、展開細案)

1. グローバル化

本論は、グローバル化するアジアにおいて道徳教育に何ができるのか、授業実践を目指した論考である。

長崎大学教育学部附属小学校の平成 23 年度初等教育研究発表会は「文化の創造者としての子供」を掲げて 2012 年 2 月 3 日におこなわれた。その際の「研究紀要第 56 集・学習案集」に、一瀬利朗が、グローバル化する社会における道徳教育のあり方について「視野を広げ、豊かな関係を作ろうとする子供」をタイトルに、同校道徳部としての論を展開している。一瀬利朗は次のように言う。

... グローバル化によって人の交流が進むと、文化の違い、価値観の違いもより明らかになってくる。そして、「分かり合い、理解し合う」ことの難しい人同士が共に生活する社会に直面する。その中で、違いを踏まえた上で、互いの利益を考えながら共生できる状態を目指す合意形成を図り、平和な国際社会をつくる必要が生じる。日本人も、多様な価値観を尊重し、自らの価値観を見詰めながら、道徳性をつくることが求められよう¹⁾。(一瀬利朗、長田誠、2012、p.110)

一瀬利朗は、グローバル化する社会への視野をもち、人と人との道徳上の関係をつくっていく子どもについての論を展開している。この論で一瀬利朗が想定しているのは、学びの場にいる子どもである。

グローバル化は一般に、Malcolm Waters が『Globalization, second edition』で言うように「地理的な制約が縮小し世界は単一の場 (single place) になりつつある」(Waters, 2001, 序文) との認識であろう。Malcolm Waters が編集したこの本は 8 つの節で構成されており、2 つを経済に、2 つを政治に、2 つを文化に割り当てている。経済におけるグローバル化が政治を揺るがし文化を揺さぶっている

とつなげられる認識は、合意の得られるところであろう。この本の文化に関する2つの節は、しかし、clashing civilizations ならびに new world chaos のタイトルがつけられている。グローバル化によって世界は1つの場としてみられる (seeing the world as 'one place', Waters, 2001, p.184) としても、グローバル化がもたらす社会は決して平穏ではないようだ。

そうであればこそ、一瀬利朗が言うように、平和な国際社会のために、文化と価値観の多様性を認め、自らの価値観を見つめて合意形成を目指す構えが、未来に向かう道徳教育に求められる。子どもの30年後にまで役に立つのは、グローバル化のなかでの道徳性を創造する子どもを目指した授業であろう。道徳授業が、1つの文化圏に根ざせばいい時代は過ぎている。

Nel Noddings は、ケアリングを人と人との直接の関わりにおいて説くと思われそうだが、グローバル化を視野に収めた道徳教育への問いを提出している。

道徳教育は伝統的に地域または宗教共同体の規範を参照しておこなわれてきた。... 多様な集団との交流が比較的まれであった過去には、両親は彼らの共同体に支持される価値の教え込み(inculcation)に、また集団内のよくない影響から子どもを守ることに集中できた。

今日われわれは自分の価値と異なるかもしれない人々と日頃から生活し働き、世界中の人々と時を同じくして交流するかもしれない。その上、世界の人口の増加と資源の消費の同様の拡大が新しいそして差し迫った道徳問題を引き起こしている。道徳教育はいかにこれらの新しい状況に応答すべきだろうか²⁾。(Noddings, 2010, p.390)

グローバル化について整理しておきたい。Nel Noddings は、共同体における道徳教育ならびに異なる価値観を抱く人と接するグローバル化した世界とを対比して描いている。Malcolm Waters は R. Robertson を引きながらグローバル化を、1. 個人の自我、2. 国民社会、3. 社会の国際的な制度、4. 人間性一般の4つの要素に分けている (Waters, 2001, p.183)。しかし、個人と人類、国家と世界とを組み合わせた4項目は、アイデンティティと文化圏のまとまりならびに教育の過程を考えると、西欧流の形式理念に止まる。個人から人間性に飛ぶ思考は、人がまとまりとして根ざす生活基盤、ならびに文化と価値観のアイデンティティ形成過程を欠いて、形式的である。皮膚によって分離された個人から出発する西欧個人主義が抽象化された個人をそのまま人間性一般に結びつける発想は、身体をもって人と人の関わる地域、文化や価値観の特質によって形成される圏を消している。グローバル化は人々と圏の具体性において進行する。同様に、国家と国際制度の組み合わせでは、アジアや文化圏のまとまり³⁾は消える。

すると、個人のアイデンティティの根づく地域(長崎など、生活の場、行動の場)を1と2の間に、ならびに国民と国際の間に歴史と文化の根として圏(アジアやEUなど、文化圏、経済圏、あるいは生物圏)を3と4の間に挿入しておく

ことが、人間形成における視野の拡大過程をすくい取るために、ならびにアジアやアフリカやEUそれぞれの特徴をもったグローバル化を考えに入れて現実的である。すなわち、1. 個人、2. 地域、3. 国家、4. 圏、5. 国際社会、6. 人類という程度の具体性のある分節化をしておく必要がある。そして1と6はつながり、全体は円環をなす。個人は、人類なのだから。

Nel Noddings は、グローバル化において人間がよって立つ場の重要性を認識している。「わたしはすでに、個人とグループの生活する場が重要であると示唆以上に語った。グローバルなシティズンシップにおいては、人々の場 (place) への愛着を理解し共感する必要がある。」(Noddings,2005.p.65)

Nel Noddings と Malcolm Waters は、グローバル化について、一瀬利朗が指摘するように、世界の交流の拡大ならびに文化や価値観の違いが明らかになる事態を見ているが、場 (place) に関して異なる方向で論を展開している。Malcolm Waters のいう場が、世界を 1 つの共通な場と認識する方向であるのに対して、Nel Noddings は、生活する場と心情のよりどころの重要性を語っている。ここで提起されているのは、グローバルとローカルを巡る問いである。Place の違いは、どの方向を見るかによって、グローバル化の異なる様相を浮き彫りにする。

対立するように見える Nel Noddings と Malcolm Waters のグローバル化論は、認識の場ならびに行為や心情の場の違いとして整理できるように思う。アスファルト道路を歩くとき中東を思わざるを得ないし、衣料品を手に入れるとき中国を目にせざるを得ず、日常、グローバル化した世界を意識せざるを得ない。情報とモノは人の認識範囲を拡大しても、しかし生身の身体は制約のもとにある。見聞がグローバル化しても、身体と心情の範囲は認識ほどに拡大するわけではない。情報は一度に多くの国際社会へと認識を拡大しても、身体は一度に 1 つの地域にあるほかなく、〈いま、ここ〉の制約のもとにある。その制約はしかし、アイデンティティを保つ基盤となり、心情が身体の間と乖離しないことによってグローバル化をアイデンティティをもって認識する基盤となる。グローバル化は、ローカルな自己の喪失ではない。この点は、子どもの育成において特に留意すべきである。

子どもの場合、グローバルとローカルの関係は、成長過程として結びあわされる。学びの場において生活する子どもは、〈いま、ここ〉に制約されると同時に、学ぶ場において認識の拡大をこととしている。子どもにおいて生活することは認識の拡大によってローカルな場で成長することである。認識による視野の拡大はグローバル化に即応している。子どもは、身体の間と心情を基盤とするアイデンティティを保ちながら、視野の拡大とともに多様性を糧として自分の豊かさを拡大する成長過程にある。

Nel Noddings と Malcolm Waters のいう場が異なるように見えても、学びの場にある者には、認識の拡大は、行為と心情の成長に結びつくべきである。また成長に結びつかなければ、学びの場にいる意味がない。

子どもの未来を視野に収めた道德教育の実践を志向するとき、グローバルなつながりに耐える道德授業が求められる。視野を広げ、豊かな関係を志向する子どものためには、道德教育の視野を広げて異質な他者との出会いと関わりを、一瀬利朗の論の表現では豊かな関係を目指す関わりを取り込む必要がある。

すると、以下の点を確認できるのではないか。

第1に、グローバル化によって世界が単一の場になりつつあるとしても、経済上の一体化また政治上の連合が、単一の文化を結果するわけではない。文化と価値観の多様性は尊重されるべきである。グローバル化によって、むしろローカルの意味が照射され、グローバル化はローカルの独自性によって豊かでありうる。言い換えれば、グローバル化は、多様性を認め合う道德上の姿勢を要請する。

第2に、道德は人と人との関わりにおいて成立し、関わりが多様性を包んでグローバル化しているのだから、道德教育もグローバルな関わりを視野におこなわれるべきである。グローバル化は認識の拡大だけではなく、ローカルの豊かな認識を要請し、豊かな行為と心情につながる学びを要請する。この学びは、自らの所属するローカルだけでなく、他者のローカルからの学びを含む。

「自分の価値と異なるかもしれない人々と日頃から生活し働き、世界中の人々と時を同じくして交流する」時代の道德教育は、異なる価値との関わりへと視野を拡大している。グローバル化に沿うとき、必ずしも国家の法の範囲に、人の関わりと教育が限定されるわけではない。日本について焦点をあてるとそこには、3つほどの理由が挙げられる。1つは日本は、海洋の広がりとなつなぎの中にあり、明治以降に限っても、日清、日露戦争以来、15年戦争に至る期間アジア太平洋地域に惨禍や支援を残してきた、すると日本がどのように関わったかによって、その目でアジアの他者に意識される以上、今日の国境線を認識、行為、心情の区切りにする必然性はない。2つには、経済やグローバル企業がそして宗教が国を超えて活動しているとき、道德意識も国境線の枠を超えて互いを結んでしかるべきであり、人と人を結ぶ道德教育が国家を超えたつながりを視野にすることが要請される。3つには、地域や国家や文化圏を成立させているモノの動きはすでにグローバルであり、意識の視野をモノの動きよりも狭く限定するのは、意識の自由を妨げて不合理である。道德上の対話と合意形成、ひいては道德文化の創造は、現在の立ち位置を超えた思考の飛翔を必要とする。それはまた学びである限り、成長に資する必要がある。国際共同道德学習を支えた考えは、ここにあった。

2. いのちの支え合い

国際共同道德学習案において日本と台湾の関係は、アジアにおけるグローバルでローカルなつながりとして位置づけられた。研究プロジェクト全体のタイトルを「グローバル化するアジア社会における道德教育」(Moral Education in Asia's Globalizing Societies) にすることは合意済みであり、授業のねらいは「いのちの支え合い」(mutual help for life) におかれた。この方向にかなう資料を探し、

授業を構想して、台湾とともに検討し、合意した案をここに掲げる。この学習案は、3, 4年生を対象に構想されたが、5, 6年生にも面白い。実際に台湾は阿里山の香林国民小学の5, 6年生でもおこなったが、深まりがあり有意義であった。

2012年1月早々の時期、グローバル化する関係を語るとき、東日本大震災が引き起こしたいのちの支え合いの意味は大きかった。東日本大震災以降の日本を見るとき、日本人の道徳性が優れていると評価されただけでなく、グローバルないのちの支え合いがおこなわれた点を忘れるべきではない。

しかし、日本人の道徳性をグローバルな視点から見たときに起こった自己犠牲と生命尊重の関係のずれは検討しておく必要がある。

東日本大震災での日本人の道徳性に関して、海外のメディアが自己犠牲に言及している。2つの例を挙げる⁴⁾。ニューヨークタイムスが2011年3月15日の記事 *Ketth Bradsher* と *Hiroko Tabuchi* による *Last Defense at Troubled Reactors: 50 Japanese Workers* とタイトルをつけた記事で福島第一原子力発電所に残った50人を「顔のない50人」と表現しながら「暗黙に自分を犠牲にすることを求められた人々だ」と語っている。また3月25日に *Michael Wines* が *Rikuzentakata* からの記事 *Newly Homeless in Japan Re-Establish Order Amid Chaos* において、日本人の態度を「禁欲と自己犠牲」と書き、「悲劇に直面しての静かな勇気、それはほとんど国民の性格に織り込まれているように見える」と発信している。

こうした日本人の道徳性に自己犠牲を見る受け取り方には、違和感を覚えた。自己犠牲の強調は、第二次世界大戦末期のいわゆる特攻隊を思い起こさせる。我が身を犠牲にして日本共同体のために働くイメージを彷彿させかねない。他者のいのちを支えることは、自己犠牲によるとの美化は危うい。今日の道徳授業で語ることができるのは、我が身を最大限安全に保ったうえで他者を支える態度であろう。自らの安全性を確認したうえで必要な危険に望む態度でなければ、公教育に授業として持ち込むべきではない。この点は戦後の日本の出発点として、また命を大切にす日本の道徳性のあり方として確認されると思った。

日本と台湾のつながりにおいて命の支え合いを具体的に語るために、東日本大震災を契機にした台湾から日本への支援を、本授業の終末に挿入した。台湾から、多額の物資や義援金が送られたからである。この背景に1999年9月の台湾中部大地震などで日本が台湾を支援した経緯があることを含めて、グローバルな支え合いの例としてグローバルな共同学習案の最後にふさわしいと考えた。

東日本大震災に対する台湾の支援額について、台湾で授業をおこなった際には具体的な支援品目とともに、義援金で190億円以上、2011年4月15日時点で世界最高額であったとの話を終末に語った。2月3日の長崎大学附属小学校の公開道徳授業においては、義援金が200億円に達して世界で最高額であるとの話を使った⁵⁾。

学習の資料は、最終的に台湾の林為凱（りん うえいかい）氏の話を用いること

に決めた。彼は、SARSの際に、ボランティアとしてバスの運転手に名乗り出た。SARSに対する十分な防御、対策をした上で、医療関係者の送迎をおこなった。これを、いのちを支え合うテーマにかなう物語として用いた。その背景には、1. バスの運転手という存在が3年生になじみがあること、2. 直接にいのちを助けるのではなくても支える努力があること、3. いのちを守る必要のある場合の対応として台湾であれ日本であれ物語の構造は共通であること、4. グローバルないのちの支え合いはローカルないのちの支え合いの延長上にあることから、林さんの話を資料化した。

日本と台湾は、資本主義経済圏、民主主義の政治体制、アジアとしての共通性において、またいのちの教育の重要性を認識する点において、国際共同道徳学習案を共に作り、授業をおこなう協同への基盤を共有していた。また2011年の1月に日本から日本道徳教育方法学会国際委員会の一行が道徳授業交流のために訪れており、同年7月初旬には台湾からおいでになり長崎大学教育学部附属小学校で道徳授業をおこない、また国際シンポジウムを「グローバル化するアジア社会における道徳教育：理念と実践」のタイトルでおこなった経験から、国際共同道徳学習案に踏み出すことが可能なパートナーであった。

2012年1月に台湾でおこなった道徳授業は6つ、嘉義（Chiayi）の興中国小で4つ、すなわち3年生と5年生の授業2つずつ、阿里山は香林国小で3-4年生、5-6年生合同で1つずつであった。そのうち、興中国小の3年生の2つの授業、ならびに香林国小の3-4年生、5-6年生の2つの授業が、掲載した学習案によっておこなわれた。授業者は、それぞれの学校で台湾の教員がおこない、また日本から赴いた長田誠がそれぞれの学校で通訳を交えて計2回授業をおこなった。

3. ふり返り、個人そして協同

本道徳授業の道具立てとして、心のメモリと手づくり連想マップを挙げておく。心のメモリは、10段階の座標軸を黒板に貼り、自分の考えがどのあたりに位置づくかネームプレートを貼って自己表現する技法である。本学習においては、自分の考えの表現として、また自分のふり返りとして用いた。

授業の価値の追求・把握の段階冒頭「あなたは命を大切にしていますか」の発問は、あえて対象を限定せずに問うた。自分の位置を10段階尺度で黒板にネームプレートで張り出した後、子どもは林さんの話を聞き、他者の命を支えた林さんを10とした場合と比較して、自分の位置を動かすように授業を組んだ。異なる価値あるいは高い価値からの自分のふり返りとして、ネームプレートの位置を再度考えてもらった。これらの過程は、個人の価値表出ならびにふり返りになる。

手づくり連想マップは、評価としての連想法を授業内に取り込みながら、子どもが協同で対話し、合意形成過程を含んで進める作業として位置づけられた。グループ内の対話によってつくられた手づくり連想マップは、グループ間で見せ合った。その後の教室全体での、教員が介在しての意見交換は、個人のふり返りや

友人間の対話に対比すると公共性の高い段階として位置づけられた。

すなわち本授業構想に、1. 個人の意見表出とふり返し、2. 友人間の対話による合意形成、3. 教室全体の公共的な水準への3つのステップを組み込んだ。

台湾の物語を導入するについて、長田誠は注意深く子どもたちを異なる世界に導入した。1つは、教室に台湾コーナーを設けて異なる世界への導入を図った。2つには、公開授業の始まりを待つ時間帯に、なぜ担任が台湾に行ったかを物語り、担任が向こう（台湾）でもやった授業の世界へと子どもを引き込んだ。小学校3年生は、担任の経験した世界へと自分を運んでいった。それは、物語を読んで異質な世界に入ると同様、担任を介して異なる世界へと分け入ることになった。

使ったのは台湾の主人公の物語で、国境線を境にすると異質性を含むことになろうが、物語の構造は、バスの運転手が自主的にいのちを支える行動をとった話であり、違和感はなかった。子どもにとっては、いのちのための冒険と成功の物語として普遍性をもっていたのであろう。

子どもは、容易に異質な世界に入ると思う。物語によって異なる世界へと入っていく楽しみを日常に体験しているのだから。また、さまざまな教科を1日にいくつも学び、よく混乱しないものだと思う。物語が子どもの理解できる構造であり、子どもの必要と重なっていれば、グローバルで異質な世界はむしろ望むところであろう。広い世界を見て成長したいとの欲求は、子どもに強い。その意味で子どもは、日常である教室から身体を動かさないとしても、容易に世界を渡り歩く人になる。ローカルな場への愛着を持ったまま異質な世界に入り込んで行う冒険と成長の物語は、子どもの興味にとってまた成長にとって、歓迎するところである。グローバルとローカルの結びつきは、学びの場において成長物語として編まれるたと言えよう。

4. 国際共同道徳学習案（日本語、中国語、展開細案）

以下に、学習案の日本で2012年2月3日に用いたもの、同年1月5日ならびに6日に台湾で用いたもの、双方を含んだ展開細案の3つを掲げて、本授業の構想を示す。日本用と台湾用に内容の異なりはなく、日本と台湾の教員ならびに日本と中国の通訳スタッフによって検討された学習案である。すなわち、授業素材の選択から、作成、翻訳過程、そして実施に至る各段階において国際共同で進められた道徳授業であった。

道徳学習案

自 9:20

平成24年2月3日(金) 至 10:05

授業者 長田 誠

I 主題名 「いのちの支え合い」(生命尊重3-(1))

II 資料名 「あるバス運転手のたたかい」(自作)

III 自己表現をステップアップさせ、道徳的価値を追求する道徳学習の組織

主題の目標

- 生命は多くの人々の支え合いで成り立っているということを知り、そのことから自他の生命を尊重しようとする意欲を育むことができる。
- 生命のかけがえのなさを知り、そのことから生命を尊重しようとする心情を育むことができる。
- 人の暮らしは、自他がお互いの命を支え合いながら成り立っていることを知り、支えられている自分の命や周りの人々を大切にしながら生きていこうとする態度を育むことができる。

子供の実態

- 本学級の子供たちに、「命」という言葉で連想調査を行ってみたところ、記述した言葉の中で「大切」と記述した子が最も多かった。このように、命が大切という意識は、ほとんどの子供がもっており、普段の暮らしや学習を通して、その命を大切にしていこうとする意識や自覚は少しずつ身に付いてきている。しかし、自分の命が多くの人々に支えられているということを考えながら生活する経験は少ない。
- 子供は、様々な場面において、家族や友達とのかかわりを通して、自分や周りの人を大切にしながら生活していこうとしている。道徳の時間の学習では、他の人とかかわりを通して、自分自身の在り方を見詰め直し、自己を大切にしながら、よりよく生きようとする心をはぐくんできている。
- 本主題においては、人の命を救うために行動した人物の行いに目を向けることで、生命の尊さに気付くとともに、自分や周りの人の生命を尊重しながら生きていこうとする意欲を高めていくことができると思う。

教師のかかわり

- 本主題では、子供が自己表現をステップアップさせ、道徳的価値を追求する学習を展開する。その中で、子供が「論理的な表現」をできるように、以下のかかわりを行う。
- 本時で「命の支え合い」についての話し合いを深めるために、事前に、「命」について家庭で話題にしたり考えたりするように促す。そのことで、子供がこれまでもっていた道徳的価値に対する見方や考え方の視野を広げておくようにする。
 - 多様な価値観を出し合い、より深く道徳的価値を追求することができるように、「心のめもり」を生かした対話の場を設定する。そこで、「あなたは命を大切にしていますか」という課題を提示したり、自分と主人公とを比較し考えるようにしたりすることで、子供が自分を見詰めたり合意形成を図ったりすることができるようにする。
 - 生命についての価値の広がりや深まりを自覚することができるように、子供が「手作り連想マップ」を作成し、表出する言葉について確かめ合う場を設定する。そのことによって、自他の生命を大切にしながら生活したいという思いをもつことができるようにする。

IV 本時の学習

1 ねらい

「あなたは命を大切にしていますか」に対する考えを、自分の経験や暮らしとつなげながら聞き合うとともに、困難な状況にめげずに多くの人々の命を救った主人公との出会いを通して、生命の尊さを感じながら、命が多くの人々の支えで成り立っていることに気付くことができる。

2 展開

難	子供の取組	教師のかかわり	期
意識化	1 本時のテーマに対する関心をもつ。	学習材1 ・日本と台湾の連想調査「命」の結果	5
価値の追求	2 「あなたは命を大切にしていますか」について考える。	○ 連想調査「命」の結果について、次の2点を紹介する。①本学級の子供たちへの調査②台湾の3年生への調査。いずれの調査結果でも、「大切」という言葉があることに目を向けるようにする。あわせて、これまでに調査を行ったいずれの学校でも同じような傾向であるということを知らせる。	5
	3 資料を読むことにより、主人公の行いについて考える。	学習材2 ・心のめもり	10
把握		学習材3 ・資料「あるバス運転手のたたかい」	20
		○ 「あなたは命を大切にしていますか」という問いについて、「心のめもり」の10段階にネームプレートを置き、考える場を設定する。その際、「大切にしている」を10、「大切にしていない」を0とする。そして、ネームプレートをそこに置いた理由を考えるようにする。	
		○ 資料を開いた後、感想を述べ合いながら、主人公の行いに目を向けていくようにする。主人公が、厳しい状況の中で、どんな気持ちでこの任務を行ったのかを問うことで、主人公の意志や不安などについて考えるようにする。	
		○ 「主人公は命を大切にしたことになるのだろうか」について考えるようにする。主人公は、自分の命を感染の危機にさらしながら隔離専用車の運転をしたことで多くの人々の命を守ったことを確認する。	

価値の自覚化

意欲化

○ 話合いの後半に、路線バス運転の業務に戻ったときの乗客の様子を紹介する。その際、乗客が林さんに気付いたときの反応が予想できるように、間を取る。その後、「乗客は、なぜありがとうと言ったのだらう」と問う。そうすることで、人々の命や暮らしは、様々な人々の支え合いによって成り立っているということに気付くようにする。

○ 学習材2「心のめもり」に立ち戻り、自分と主人公を比較し、主人公のめもりを10にしたときに、自分がどこになるかを考える場を設定する。その際、根拠をもって理由を述べることで、学級集団として、命の支え合いについての合意形成を図るようにする。



4 手作り連想マップ
「命」を、グループで作成する。

学習材4
・手作り連想マップ

○ 「命」に対する自分の考えを基にグループで話し合い、「手作り連想マップ」を作成する。その際、①テーマ「命」に対するキーワード、②これから命を大切にしたいこと、の2点を中心に記述していく。そこでは、本時の学習を通して深まった「命」に対する見方や考え方を基にした言葉が表出されるであろう。その際、なぜその言葉をマップ上に記すのかについて、互いに根拠をもって話し合うようにする。

【視野を広げ、豊かな関係を作ろうとする子供】
生命は、多くの人々の支え合いで成り立っているということ意識し、そのことから自他の生命を尊重しようとする言葉を表出し、話し合うことができる。

○ 次のような内容で説話を構成することで、命の支え合いについて確認し、本時の学習の意義を実感できるようにする。

- ・東日本大震災で、多くの人々の命が亡くなった。大変な状況の中、多くの国から支援があった。
- ・台湾の具体的支援を紹介する。
- ・国が違っても、人のために動いてくれる、まさに、世界が「命の支え合い」でつながっていることを実感した一場面であった。

「あるバス運転手のたたかい」 (自作)

皆さんは、命を守る人という、どんな人を思い浮かべますか。警察官や消防士、あるいは、お医者さんや看護師さんなどを思い浮かべる人も多いでしょう。でも、そういう仕事についている人だけではありません。これからするお話は、あるバス運転手のお話です。

台湾で路線バスの運転手をしている林為凱さん。今から10年ほど前に、台湾で有名になった人です。林さんは、当時、バスの運転手になってまだ2年ほどの若手で、これからが期待されている人でした。

そのとき、台湾でSARSという恐ろしい病気が広まったのです。それは、呼吸をするのが苦しく高熱が続く症状で、薬がまったく効かず、人から人へと移っていくウィルスの病気です。世界で8千人を超える人々が感染し、8百人あまりが亡くなりました。台湾では、感染者が増え、それらの人々を隔離(まちらから離れた病院に集めて治療を行うということ)することになりました。そこで、大きな問題が起きました。それは、だれが、医療関係者を松山病院までバスで運ぶかということです。

「いくら防御をしても、ウィルスに感染するかもしれない、死ぬかもしれないという不安をもつのは当たり前。そんな危ない思いをしてまで、運転をしてくれる人などいるだろうか。」

そのとき、名乗り出たのが林さんだったのです。日ごろからボランティアの活動を行っていた林さんは、SARSのことがテレビで報道されると、この問題は医療にあたる人だけではきっと人が足りない。国が大変なときに、自分に何かできることはないだろうか、と考えていました。ですから、運転手の募集があったときに、自分から名乗り出たのです。それからというもの、林さんは日ごろ使っている自分の会社のバスを使わせてもらい、多くの医療関係者を病院へと送り届けたのです。そのときに見た病院の状況は、想像以上に大変なものでした。「この医者や看護師たちは、みんな死にそうに疲れている」そう感じたそうです。林さんも同じで、仕事が終わるのは毎日、夜中の1時、2時だったそうです。そんな林さんの勇気ある行動は、新聞やテレビでも報道されました。

医療関係者、そして、林さんのように周りから支える多くの人々の努力のおかげで、SARSは、8か月ほどでようやく収まることになりました。

★(以降は、展開後段の教師の話の中で紹介する内容)★

仕事に戻る前、林さんは10日間、隔離観察され、健康に問題ないことが明らかになって、初めて仕事に復帰しました。そのとき使っていたバスも、3日間の大消毒を行ったそうです。これは、人々が「SARSにかかわっていた人から病気を移されはしないか」という不安を取り除くためのものでした。

普段のバス運転手としての仕事に戻った林さん。林さんは、自分がSARSの仕事をしていたと知ったら、乗客が不安に思わないだろうか…。そんな心配をしながら運転を始めました。そんな中、ある女性のお客さんが、SARSのときの運転をした林さんだと気付いたのです……。

するとどうでしょう。その女性ばかりでなく、他の乗客までもが皆、次々に彼のもとへ近付いてきました。そして、このように言ったのです。

「ありがとう」「お疲れ様」…。多くの言葉と握手に包まれて、林さんは温かい気持ちになりました。

★展開後段「教師の説話」のための資料★

- 東日本大震災の際の、台湾から日本への支援
 - ・発電機688台、毛布1599箱、寝袋2587箱、スリーピングマット236箱、衣類4488箱、食品16.5トン及び9444箱、ストーブ900台、マスク404箱、カイロ150箱、飲料870箱、手袋42箱、暖房器具53台、粉ミルク895箱、マフラー21箱、枕16箱、ティッシュ20箱、トイレトペーパー30箱、懐中電灯3箱、タオル48箱、他 義援金190億円以上(4月15日時点で世界最多額)

道德教案

2012年2月3日(週五) 9:20~10:05
教學者 長田 誠

I 主題名稱 「生命互助」 (珍惜生命3-(1))

II 資料名稱 「一位公共汽車駕駛員的挑戰」 (自編)

III 提高學生自我表現的能力，建立追求道德價值的道德學習組織

教學目標

- 了解生命的存續在於人與人之間的相互幫助與支持，從而培養尊重自我與他人生命的意識。
- 了解生命之無可代替的寶貴性，從而引發珍惜自我與他人生命的感情。
- 了解日常生活中人與人之間的相互幫助與支持必不可少，養成日常生活中愛護自己與他人的態度。

學生的實際狀況

- 在本學年實施的關於「生命」的聯想調查的結果，為數最多的回答為「寶貴」。此結果表明大多數的學生通過平時的生活經驗和課堂學習，已逐漸形成珍惜生命的意識和自覺。但是，在日常生活中很少有機會深刻思考自身生命的存續是由於有眾多他人的幫助與支持。
- 學生們在實際生活的各種場合中，通過與家人和朋友的種種接觸，學會如何尊重和體貼自己與周圍的人。通過道德教育單元的學習，通過思考與他人的關係，能夠重新認識自身應有的生活態度，從而起到端正生活態度的效果。
- 本單元的主題，通過學習救助他人生命的主人公的行動，期待「認識生命的珍貴，提高尊重自我與他人生命的意識」的收效。

教師的參與

- 本主題意在提高學生自我表現之能力，展開探求道德價值的學習。為增強學生論理性的表現能力，將展開以下活動：
- 事前進行以「生命互助」為主題的家庭內討論，以拓寬視野，重新審視和思考自身對「生命」所抱有的道德價值觀念。從而在課堂討論進行時收到更為深刻的思考「生命互助」主題的效果。
 - 活用「心的計量器」引發討論，通過價值觀的相互碰撞，追求更深層的道德價值。提示「你珍惜生命嗎」之主題，通過自身與主人公的比較引發思考，形成學生們反思自我的共同意識。
 - 製作「聯想圖」，提供相互確認和討論關鍵詞的機會，從而達成深入廣泛的感受生命價值的目標。通過此項展開，確立珍惜自我和他人生命的生活態度。

IV 本單元的活動

1 目標

結合自身的經歷以及日常生活中力所能及的事情，反思「我現在是否做到珍惜自己和他人的生命？」。通過了解主人公不畏困難協助醫護人員與疫情作鬥爭的事蹟，感受生命的寶貴，認識到生命的存續在於人與人之間的相互幫助與支持。

2 發展活動

課	學生的活動	教師的參與	時間
認識・思考 / 價值的追求・把握	1 引發對本單元主題的關心。	教材1 ・日本與台灣的「生命」聯想調查的結果	○ 介紹「生命」聯想調查的結果。①針對本學年(日本)的學生的調查結果。②針對台灣的3年級學生的調查結果。兩地調查的結果顯示：回答中均出現「寶貴(大切)」的詞彙。並告知學生在其他學校和年級中所作的調查也顯示出同樣的傾向。 5
	2 討論「我是否做到珍惜生命？」	教材2 ・心的計量器	○ 正如聯想調查結果顯示的那樣，學生們雖然已經在頭腦里有了珍惜生命的認識，但是在日常生活中很少遇到對此作出思考的機會。製造學生直面何謂「珍惜生命」的問題，引發學生對「珍惜生命」作出自己的思考。 5
	3 根據資料思考主人公的行為。	教材3 資料「一位公共汽車駕駛員的挑戰」	○ 講讀資料後，交流感想，並引起對主人公所作所為的關心。 ・主人公在當時嚴峻的情況之下主動報名執行隔離專用車駕駛任務時的心境。設想主人公當時的意志和不安情緒。 20 ○ 思考「主人公是否做到了珍惜生命？」 ・確認：主人公冒著感染SARS的危險駕駛隔離專用車的行動，維護了許許多多的生命。

價 值 的 自 覺 化	<p>○ 在討論接近尾聲時，介紹主人公回到普通線路公車崗位時的情況。留出時間間隔讓學生們能夠設想乘客們當時的反應。提出「乘客們為什麼對主人公說謝謝」的問題。引導學生關注：正是因為大家的相互支持，生命和生活才能得以繼續。</p> <p>○ 回到教材2「心的計量器」，把自己和主人公作比較。將主人公的指數設定為10，然後讓學生反思自己的位置在計量器上是哪裡。並請學生說明理由。通過這樣的環節試圖形成學年集團的生命互助的共同意識。</p>	
	<p>4 分組製作「生命」聯想圖。</p> <p>教材4 ·製作「生命」聯想圖</p>	<p>○ 分組討論各自對於「生命」的理解和思考，完成「生命」聯想圖。主要聚焦在①關於「生命」的關鍵詞，②今後珍惜生命的具體行動，的兩點上。通過本節的學習學生對「生命」的思考應會在其所用的詞彙上有所反映。讓學生在組內討論為什麼會在聯想圖上使用這樣的詞彙，究明理由。</p>
能 動 化	<p>5 傾聽教師的總結，提高實踐意欲。</p>	<p>○ 用一下內容構成結語，確認什麼是生命互助，感受本節學習的意義。</p> <ul style="list-style-type: none"> ·東日本大地震奪去了許許多多的生命。在日本陷入困境時，得到了來自各個國家的援助。 ·介紹來自台灣的具體支援。 ·人與人的相互支持是不分國界的。感受正是生命的互助把世界連接在一起之主題。

【開拓兒童視野、建立和諧關係】
意識到生命的存續在於人與人之間的相互幫助與支持，在相互討論中表述出尊重自我與他人生命的感情。

「一位公共汽車駕駛員的挑戰」 (自編)

說起救助生命，大家會想到誰呢？可能大家首先想到的是從事警察，消防員，或者是醫生，護士等職業的人們吧。不過可不單是這些從事特殊職業的人們才能救助生命，今天給大家講一個關於一位公共汽車駕駛員的故事。

他就是台灣的公共汽車駕駛員林為凱先生。大約十年前他一下成了台灣的名人。當時林先生從事公車駕駛才剛剛兩年，是備受期待的新人。那時，有一種叫做SARS的傳染病在台灣大範圍流行。這是一種持續發熱連呼吸都感覺痛苦的病症，沒有任何特效藥，而且傳染性很強。據統計全球感染者超過八千人以上，導致八百多人不治死亡。在台灣隨著疫情的加劇，採取了將患者集中到郊區病院進行隔離的措施。這樣就出現了一個新難題，誰來擔任醫護人員往返松山醫院的駕駛任務？

「防護工作做得再徹底，被病菌傳染的可能性都不可能為零。誰會不顧生命危險駕駛搭載SARS醫護人員的專用車呢？」

就在這時，林先生自願報名駕駛醫護人員的專用車。平時就從事志工活動的林先生看到電視里SARS的報道後，一直在思考這次的疫情如此嚴重，醫護人員肯定人手不足，在這種困境當中，自己能夠做些什麼？得知募集駕駛員的消息時，就馬上報名了。此後林先生駕駛著自己所在客運公司的巴士，接送了眾多的醫護人員。醫院每天都像是戰場，「醫護人員每天都累的死去活來」。林先生也不輕鬆，每天都忙到夜裡一、二點鐘才結束工作。勇於與SARS疫情英勇鬥爭的防疫駕駛林為凱先生的事蹟也被多家報紙和電視台採訪報道。

在醫療機關的努力和象林先生這樣的志願者的大力配合之下，經過八個月的努力，SARS疫情終於得到控制。

★ (以下為在展開活動之中教師介紹的內容) ★

在恢復日常工作之前，林先生經過為期十天的隔離觀察，健康狀況得到確認。SARS期間所使用的車輛也進行了三天的大消毒。這一切都是為了消除人們對「與SARS防疫工作人員有過接觸的人會不會攜帶病菌」的不安。

之後林先生回到了普通線路公車的駕駛崗位。如果乘客們知道我曾經駕駛SARS隔離車的話，會不會覺得恐慌呢…。懷著不安的心情林先生開始了線路公車的駕駛。恰好一位女乘客認出林先生就是曾經的SARS隔離車駕駛員。此時不只是這位女乘客，其他的乘客也都挨個走到他跟前，說道：

「太感謝了」「辛苦了」…。在眾人感謝的話語和熱情的握手的包圍中，林先生感到無限的溫暖。

★展開活動中教師所介紹內容的背景資料★

- 東日本大震災後，台灣對日本的支援
 - 發電機688台，毛毯1599箱，睡袋2587箱，褥子236箱，衣服4488箱，食品16.5噸又9444箱，暖爐900台，口罩404箱，懷爐150箱，飲料870箱，手套42箱，取暖器具53台，奶粉895箱，圍巾21箱，枕頭16箱，紙巾20箱，衛生紙30箱，電筒3箱，毛巾48箱，又 義援金190億日圓以上(到4月15日截止為世界最多)

道德學習案 「いのちの支え合い」 展開案

長田誠 台灣道德 展開案 (12月28日模擬授業後、一部改訂)

長田誠 台灣道德學習活動(12月28日、一部分修正)

1 本時のテーマに対する関心をもつ

1 引起本節主題的興趣・

T: 「姿勢を正しくしてください。」

請人家坐好・

「では、始めます。」

現在開始上課・

T: (連想調査票を見せながら)

「12月にこの連想調査をやりましたね。覚えていますか？」

大家還記得我們12月做的聯想調查嗎?

P: 「はい、覚えています」

記得・

T: (興中小の連想調査の結果を見せながら)

「これは、みなさんの学級の「いのち」に対する連想調査で、たくさんの人が書いてくれた言葉です。」

這是在大家的年級做關於“生命”的聯想調查時，許多同學所寫下的答案・

T: (日本の連想調査の結果を見せながら)

「日本の3年生の学級でも同じように連想調査をしました。その結果がこれです。」

我們在日本的三年級也做了同樣的聯想調查，這是調查的結果・

T: 「一番たくさんの子供たちが書いてくれた言葉が「大切」です。」

日本同學們的可答中出現最多的是“寶貴”這個詞・

T: 「日本の子供たちに聞くと、多くの子供たちが「いのち」という言葉に対して、「大切」って答えます。僕我跟許多日本孩子提到「生命」的時候，大多數的孩子都會回答「寶貴」。

T: 「あなたは、命は大切だと思いますか？」

請問，你認為生命寶貴嗎?

「あなたは、命を大切にしていますか？」

或者說，你珍惜生命嗎?

P: うん、うん(うなずき)「大切だと思います。」

是啊，生命確實很寶貴・

P: 「大切にしています。」

應該珍惜生命。(我珍惜生命・)

2 「あなたは命を大切にしていますか」について考える

2 思考「你珍惜生命嗎」・

T: では、今から「あなたは命を大切にしていますか？」について、この「心のめもり」にネームプレートを置いてください。この「心のめもり」には、0から10までの数字があります。

下面我們就來看看你有多珍惜生命。這是「心的計量器」、有0到10的刻度。請同學們根據自己珍

惜生命的程度擺放自己的名牌・

あなたが命をととても大切にしていると思うならば10に、まあまあかなと思ったら5ぐらい、いに、全然大切にしていないよと思うならば0に置いてください。

比如說，如果你非常珍惜生命的話就放在10這裡，比較珍惜的話就放在5這裡，根本不珍惜的話可以放在0這裡・

P (それぞれに、ネームプレートを「心のめもり」に置く。)

(學生們在「心的計量器」上各自擺放名牌・)

T: 「〇〇君はどうしてここにネームプレートを置きましたか？」

〇〇同學，能告訴我為什麼放在這裡嗎?

P: 「……………」

T: 「△△さんがここにネームプレートを置いたのは、どうしてかな？」

那麼〇〇同學放在這裡是因為什麼呢?

P: 「……………」

T: 「理由はちょっと難しいかな？」

理由很難說清楚是吧・

「でも、たくさんの方が大切だって思っているんだね。」

好，大多數同學都覺得自己珍惜生命是吧・

3 資料を読むことにより、主人公の行いについて考える。

3 閱讀資料・思考主人公的行為・

T: 「では、今からお話をしますので、そのお話をもとに、命を大切にすることはどういうことかについて一緒に考えていきましょう。いいですか。」

下面我給大家講一個真實的故事。請大家和我一起想一想珍惜生命到底意味著什麼。好不好?

P はい、好

T: 「このお話の主人公は「林さん」(※文カード&顔絵)です。」

故事的主人公是林先生・

「バスの運転手をしています(※資料：バスの写真)。」

他是一位公車駕駛員・

「題名は「あるバス運転手のたたかみ」(※文カード)です。」

故事的題目是「一位公共汽車駕駛員的挑戰」・

T: 「どんなお話なのか、読みますね。」

下面老師先讀一下・

(※通訳(林均筑 or 張松心)資料を読む。)

*黒板に文カードやバスの写真などを貼っていく。(蒲池)

(※朗讀文章 讀到SARS疫情終於得到控制。)

——前半を読み終える。

T: 「みなさん、感想を言ってください。」

下面請大家來說說自己的感想・

「今のお話を聞いて、どう思った？」

聽了這個故事，你有什麼感想・

P: 感想を述べる。

說感想。

T: 「では、みんなで一緒に考えていきましょう。」

那麼，請同學們想一想下面的問題。

「林さんは、どんなことを考えながらこの仕事をしたと思いますか？」

林先生決定接受這份工作時，怎麼想的呢？

「この仕事をしている時、どんな気持ちだったでしょう？」

他在做這份工作時，懷著怎樣的心情呢？

P：「頑張ろう。」

堅持・拼。

P：「自分がSARSにかからないか、心配だな。」

他擔心自己也會傳染上SARS。

T：「では、みんなに考えてもらいたいと思います。」

林さんは命を大切にしたことになると思いますか？」

請大家想一想林先生的行為算不算珍惜生命？

P：多くの人々の命を守ろうとしたから、命を大切にしたいと思います。

他保護了很多人的生命，他是珍惜生命的。

P：SARSの人たちの命を助けようとしたんだと思います。

他是抱著救助SARS患者的信念的。

T：「そうだね。林さんは、危険な思いをしながらも、多くの人の命を守ったんだね。」

是的，林先生冒著危險，保護了眾人的生命。

T：「実は、林さんはこの仕事をしている間、絶対にSARSにかからないように、万全の防御をして仕事に取り組んでいました。」

事實上，林先生在駕馭的時候，為了保證自己不被傳染，採取了萬全的防禦措施。

T：「自分の命のことだけでなく、人の命のことを一生懸命考えて行動したんだね。」

他不但保護自己的生命，還為了救助他人的生命採取行動。

T：「では、さっきみなさんは「いのちを大切にしていますか？」という問いに対して、「心のめもり」にネームプレートを置いてくれましたね。」

剛才同學們在「心的計量器」上放了名牌是吧。

では、今度は、自分の命も人の命も大切にしたい林さんが命を大切にしているの10だとしたら、みんなはどの辺になりますか？」

如果珍惜生命的林先生的行為作為10的話，你覺得你自己的名牌應該放在哪裡。

もう一度よく考えてみてください。

請重新考慮一下。

変えたい人はネームプレートを置き換えていいですよ。」

想重新擺放名牌的同學現在可以再放一下。

P：私は、林さんのように、人の命のことまで考えてなかったので、9から4に下げました。我不像林先生那樣能夠考慮到他人的生命，所以從9改成4了。

P：私も、人のことまで考えていなかったのので下げました。

我也沒有考慮到其他人，所以往下放了一點。

T：「8か月して無事SARSがおさまった後、林さんは普段のバス運転手の仕事に戻ります。そのときのことについて、お話を読むので聞いてください。」

8個月之後，SARS終於平息了下來。林先生也回到了普通的駕駛崗位。

我再給大家讀一下那以後的事情。

資料の続きを読む。長田が読み始め、2・3秒遅れて通訳（林均筑 or 張耘心）読み始める。

T：「お客さんは、どうして「ありがとう」って言ったんだと思いますか？」

乘客們為什麼會對林先生說「謝謝」？

P：「みんなのことを思って、バスの運転をしてくれたからです。」

他是覺得幫開車是為了大家。

P：「みんなのために働いてくれてありがとうということだと思います。」

他是為了大家做這份工作的，所以要對他說謝謝。

P：「たくさんの人の命を助けました。」

他讓許多人得救。

T：「そうですね。林さんのおかげでたくさんの人の命が助かったんですね。」

對，因為林先生的努力，許許多多的人得救了。

4 手作り連想マップ「命」を、グループで作成する。

4 分別製作「生命」聯想圖。

T：「それでは、ここで、林さんの話から離れて、自分たちで「手作り連想マップ」を作っていきます。これは、グループで自由に作るものです。」

下面我們先放下林先生的故事，開始製作聯想圖。我們先分成小組然後分頭畫圖。

このマップの真ん中には「命」という言葉を書きます。その外の黄色には、「命」について大切なと思う言葉を書いてください。次に、一番外の水色には、命を大切にするために、自分がこれからしたいことについて「こういうことをしていきたい」と、短い文で書いてください。」

首先在圖的中央寫上「生命」兩個字。然後在外面黃色的圈上大家可以寫上自己想到的關於「生命」的重要詞彙。最後在最外面的淡藍色的圈上用簡短的話寫一下，從現在開始為了實現珍惜生命的目標，自己想做的事情。

※P 手作り連想マップを作成する。

※P 製作聯想圖。

T ※手作り連想マップについて、賞賛する。

※誇獎學生們的作品。

例：それぞれのグループが、手作り連想マップを一生懸命作ってうれしく思います。今日の授業で話題になった、周りの人のことについても書いてあるグループがありました。うれしく思います。

看到大家都非常認真的製作聯想圖，老師非常高興。看到今天談到的關於他人生命的詞彙也出現在聯想圖中。老師很受鼓舞。

T：「この手作り連想マップは私（先生）が日本で子供たちと一緒に授業で取り組んでいる、日本で最新のものです。これから台湾のみなさんにも授業の中で取り組んでもらえるとうれしいです。」

大家使用的手工聯想圖是老師和日本的同學們上課時實際使用過的，在日本也屬於最新的嘗試。老師非常期待手工聯想圖今後能對台灣的師生課有所幫助。

5 教師の話聞き、実践への意欲を高める。

5 聽教師的總結，提高實踐意欲。

T：「それでは、最後に私からお話をします。」

日本では、去年の3月11日に、大きな地震と津波がきて、多くの人々が亡くなりました。知っている人？

そのとき、日本に多くの国々から支援がありました。

みなさんの国、台湾からも次のような支援があったんです。紹介しますね。

最後聽老師總結一下。

去年3月11日日本發生了大地震。地震引發了海嘯，奪去了許許多多人的生命。大家都知道這次地震嗎？

地震後呢，日本受到了很多國家的援助。

台灣也送來了好多的支援物資，我給大家介紹一下。

・發電機688台，毛布1599箱，睡袋2587箱，スリーピングマット236箱，
衣類4488箱，食品16.5トン及び9444箱，ストーブ900台，マスク404箱，
カイロ150箱，飲料870箱，手袋42箱，暖房器具53台，粉ミルク895箱，
マフラー21箱，枕16箱，ティッシュ20箱，トイレットペーパー30箱，
懐中電灯3箱，タオル48箱，
他 義援金190億円以上（4月15日時点で世界最多額）
（通訳（林均筑or張松心）読む。）

・發電機688台・毛毯1599箱・睡袋2587箱・褥子236箱・
衣服4488箱・食品16.5噸又9444箱・暖爐900台・口罩404箱・
暖爐150箱・飲料870箱・手套42箱・取暖器具53台・奶粉895箱・
圍巾21箱・枕頭16箱・紙巾20箱・衛生紙30箱・電筒3箱・毛巾48箱・
又 義援金190億円以上（到4月15日截止為世界最多）

T:「皆さんの台湾では、国が違ってもこれだけ人のために動いてくれました。ありがとう。私は、このことから、世界が「命の支え合い」でつながっていることを強く感じました。そして、今、私は、国が違う皆さんといっしょに、命の支え合いについて考えています。こんなにうれしいことはありません。

今日は、どうもありがとうございました。」

台灣和日本雖然是不同的國家，但是卻提供了如此之多的援助，真是非常感謝。

老師從這件事情上深深的感受到世界是由「生命互助」連在一起的。

而現在雖然國籍不同，我能在這裡與大家一起思考「生命互助」的涵義。

我感到非常欣慰。

謝謝。

T:「これで終わります。」

今天的課就到這裡，謝謝大家。

<授業前のウォームアップ メモ>AM8:00~8:35

「マンゴー遊びをしよう」と題して「マンゴー」をキーワードにして、「心のめもり」と「手作り連想マップ」の導入と練習を行う。

「心のめもり」・「マンゴーはおいしいですか？」

「心的計量器」・「芒果好吃嗎？」

「手作り連想マップ」・提示語「マンゴー」

「分组製作芒果聯想圖」・提示語「芒果」

本論は道徳分野における長崎大学教育学部と附属小学校の共同研究の一環であり、琉球大学教育学部のスタッフならびに沖縄の教員とも協同で進めた「グローバル化するアジア社会における道徳教育」プロジェクトの一環としておこなわれた。このプロジェクトは、日本道徳教育方法学会国際委員会が主導し、上廣倫理財団の財政支援を受けた。

註

- 1) この論に一瀬利朗の署名はないが、当該部分は一瀬が書いている。全体は、長田誠の道徳授業を取り込んで共著である。
- 2) そして Nel Noddings は、グローバル化の時代に、ケア倫理学が有効だと主張し、この論文で道徳教育の形として modeling, dialogue, practice と confirmation を提出している。
- 3) 政治・経済上のアジアのまとまりについては例えば羽場久美子、2012、グローバル時代のアジア地域統合 日米中関係と TPP のゆくえ、岩波ブックレット、が書いている。文化嫌悪まとまりは仏教、稲作、漢字圏がある
- 4) 引用した 2 つの記事は、それぞれインターネットを通じて読むことができる
http://www.nytimes.com/2011/03/16/world/asia/16workers.html?_r=1&pagewanted=1&hp、2012年1月12日
<http://www.nytimes.com/2011/03/26/world/asia/26refugees.html?pagewanted=all>、2012年1月12日
- 5) <http://sankei.jp.msn.com/world/news/110712/chn11071212550000-n1.htm> など。2012年2月7日

引用文献

1. 一瀬利朗、長田誠(2012)、視野を広げ、豊かな関係を作ろうとする子供、in 平成 23 年度初頭教育研究発表会研究紀要第 56 集・学習案集 文化の創造者としての子供[3 カ年計画 3 年次]、長崎大学教育学部附属小学校。
2. Noddings, Nel (2010), Moral Education in an Age of Globalization, Educational Philosophy and Theory, Vol.42, 2010, pp.390-396
3. Noddings, Nel (2005), Education Citizens for Global Awareness, Teachers College Press
4. Waters, Malcolm (2001), Globalization 2nd edition, Routledge